

## 2. 設計マニュアルの作成

設計マニュアルは、62年度に策定された目次(案)と分担に基づいて、各担当者が執筆を行なった(62案原稿)。これを受けて63年度秋に、作成された原稿の第1回のとりまとめを行ない、部会で検討した。その結果、内容の濃淡、重複および読み易さの観点から表2-1に示すように目次(案)を変更した。以下、この新目次(案)に基づいて、各章の概要と原稿の作成状況を述べる。

### 【1章】

マニュアル全体の概要を述べるものとする。対策の分類等はここで記述する。原稿は、62案原稿の1章「序論」と4.2節「騒音対策とその分類」をたたき台として再執筆する。

### 【2章】

一般事項および橋梁騒音と特性について述べる。原稿の執筆状況は、2.1節と2.2節についてはほぼ完了、2.3節は一部が完了している。2.4節は、62案原稿の2.3節「環境と騒音・振動」を大幅に修正する必要がある。

### 【3章】

橋梁騒音の測定方法および実測例を述べる。3.2節と3.3節の原稿は、引用する図表の取扱いの問題を除いて完了。3.1節はマニュアルの原稿としては未執筆ながら、内容的には後述する騒音データW/Gの報告の中に折り込まれている。

### 【4章】

騒音対策の具体的事例を述べる。原稿は引用する図表等の取扱いの問題を除き完了している。

### 【5章】

騒音対策のうち、防音壁に関するものはこの章にまとめる。5.1節は、62原稿中2.2節「騒音と低周波空気振動の性質」の一部と4.5節「音響対策」をここにまとめる。5.2節と5.3節の執筆は防音壁協会の御協力を頂く予定である。

### 【6章】と【7章】

4章に含まれない騒音対策について述べる。6.1節のみ完了。

### 【8章】

執筆済み。

表 2 - 1 新目次 (案)

## 鋼橋の騒音と対策の手引き 目次 (案)

章 構 成		担 当 者
ま え が き		保 留
1 章 総 論	1. 1 交通騒音・振動問題	桜 井 全 員
	1. 2 鋼橋がどうかかわっているか	
	1. 3 取り扱い範囲	
2 章 橋梁の騒音・低周波振動	2. 1 振動と騒音	宮 崎
	2. 2 音の基本的性質	奥 井
	2. 3 橋梁騒音の特性	津 村、小 森
	2. 4 環境問題と、人体への影響	河 合
3 章 騒音の測定	3. 1 測定方法	測定W/G
	3. 2 道路橋の騒音	
	3. 3 鉄道橋の騒音	
4 章 発生源と構造的な対策	4. 1 発生源対策	平 嶋、米 倉
	4. 2 構造的な対策	
5 章 防 音 壁	5. 1 防音壁の減音効果	奥 井
	5. 2 防音壁の基本的な性質	
	5. 3 設計例、施工例	河 西、防音壁協会
6 章 制振対策	6. 1 パッシブコントロール	丸 山 先 生
	6. 2 アクティブコントロール	五 郎 丸 先 生
7 章 その他の対策		望 月
8 章 技術基準		西 山
付 録	1. 法規類	西 山
	2. カタログ、図面集	河 西、防音壁協会
	3. 参考文献	全 員
	4. 用語集	小 森、河 合